

稲作情報 No.10

水稻生育・大豆管理(適期培土の実施)

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会 [作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会]

早生品種以外は中干し時期となっています。ハナエチゼンはやや葉色がやや淡い傾向です。大豆圃場では、本葉3～4葉が展開中です

幼穂形成期の目安 (農試平年値)

品種	移植時期	月/日
コシヒカリ	5/18	7/12
いちほまれ	5/1	7/7
	5/20	7/14
あきさかり	5/20	7/14

[水稻]

- ・ハナエチゼンは間断通水の水管理としましょう。また必要に応じて穂肥を実施しましょう
- ・ハナエチゼン以外の品種で、十分に干せていない圃場では中干しを継続しましょう。

[大豆]

- ・天候や土壌の渴き具合を見ながら、遅れずに1回目の培土(本葉3～4葉期)を実施しましょう

○農業試験場の生育 (6月24日撮影)



○いもち病の感染好適条件の発生状況

→6/20に北陸地域で梅雨入りが発表されて以降、感染好適条件が複数地域で観測された

	三国	越廼	福井	勝山	大野	今庄	敦賀	美浜	小浜
6/22	-	-	●	●	-	-	-	-	-
6/23	-	○	-	-	-	●	-	●	●
6/24	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●: 感染好適条件 ○: 準好適条件 感染好適条件の解説は稲作情報No.9

県下一斉の畦畔草刈り実践デー

2回目 7月4日(土)、5日(日)

地域ぐるみの草刈りで斑点米カメムシの発生や帰化アサガオ類を減らしましょう。



○ハナエチゼンの穂肥施肥基準

[基肥一括施肥栽培の場合]

- ・幼穂形成期から10日経過しても葉色が淡いときは、窒素成分で1～2 kg/10a追肥する

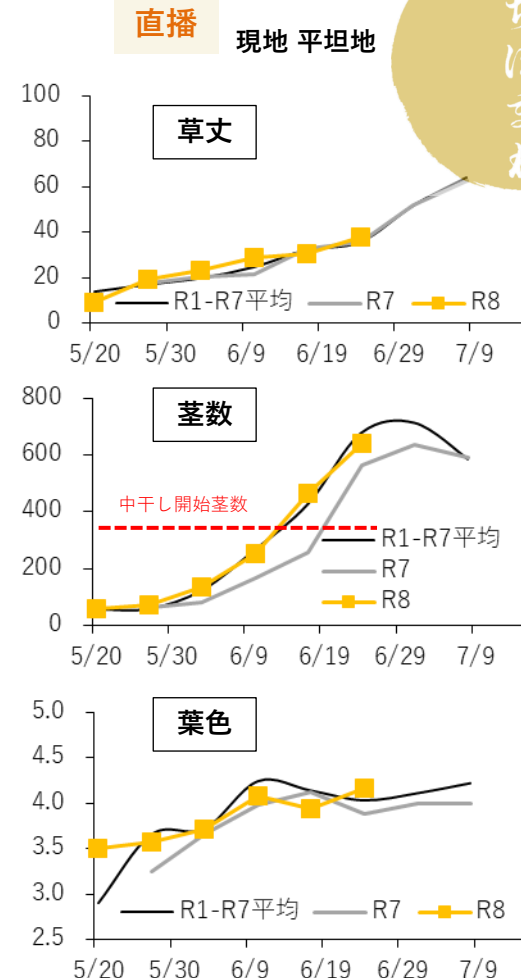
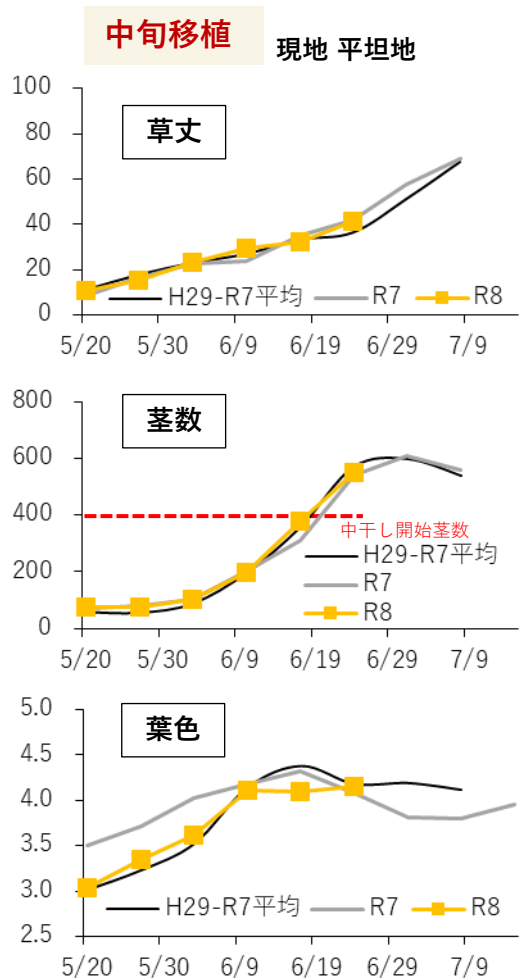
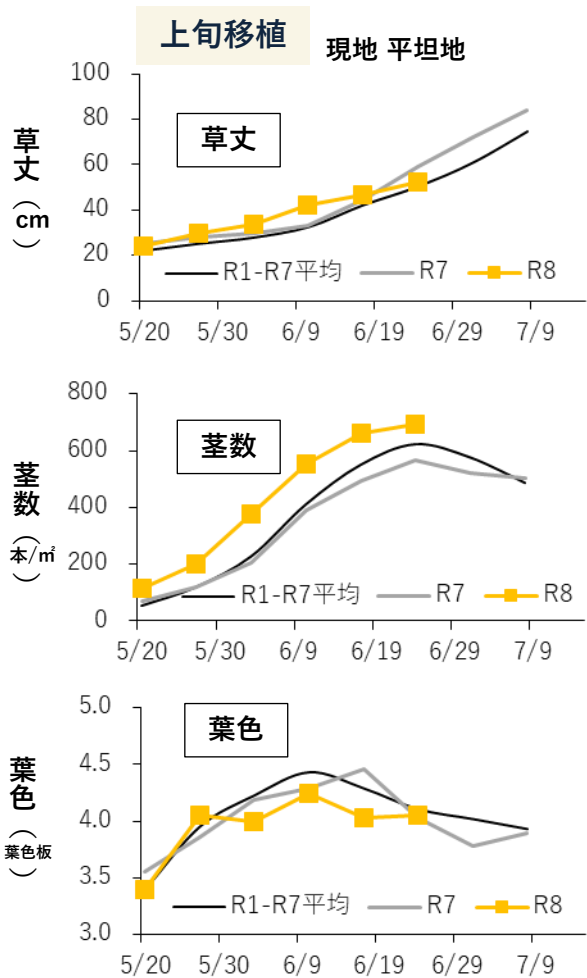
[分施栽培の場合]

時期	1回目		2回目	
	葉色の目安	施肥窒素量	時期	施肥窒素量
幼穂形成期 幼穂長1～2mm 出穂21日前	4.5	2 kg/10a	1回目の10日後	2 kg/10a

- ・葉色が4.5より淡いときや株が小さいときは1回目の量を増加する
- ・1回目の施用後5～7日経過しても葉色が淡いときは2回目を早める

追肥手法として、流し込み施肥も検討する (後述資料参照)

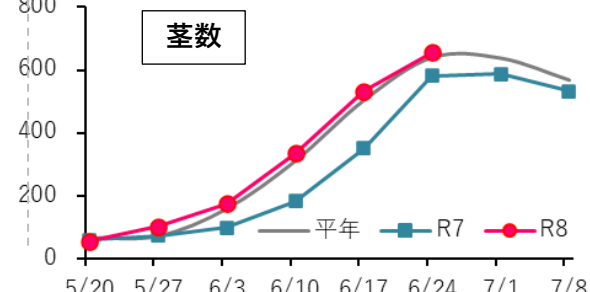
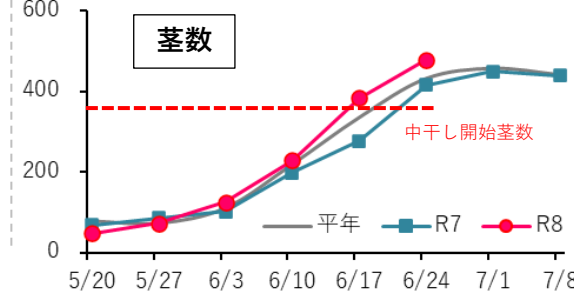
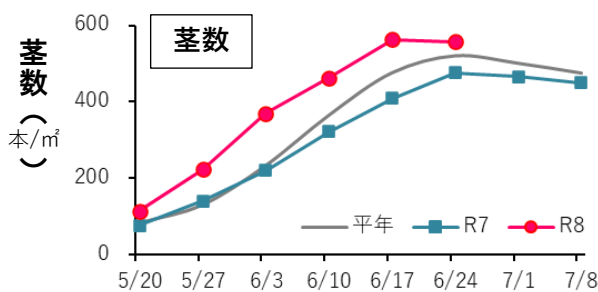
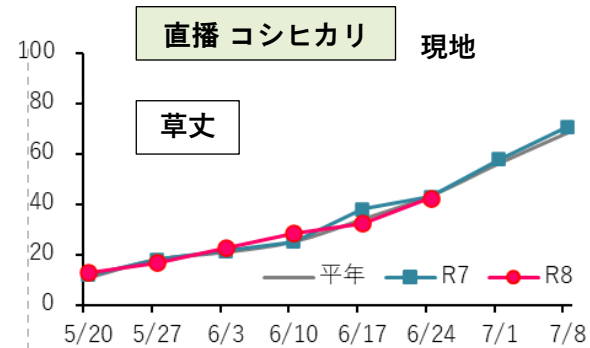
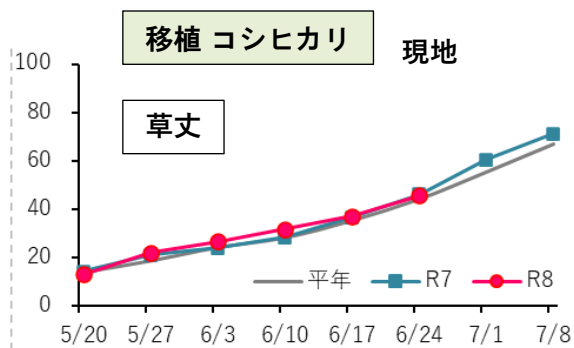
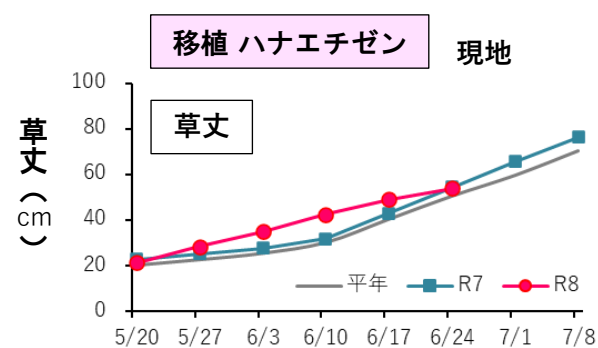
いちほまれ生育状況（令和8年6月24日調査）



	農業試験場		現地 平坦地			現地 中山間地	
	上旬移植 4/30	中旬移植 5/20	上旬移植 5/4	中旬移植 5/19	直播 5/5	中旬移植 5/21	直播 5/13
栽培方法 時期	上旬移植 4/30	中旬移植 5/20	上旬移植 5/4	中旬移植 5/19	直播 5/5	中旬移植 5/21	直播 5/13
地点数	1	1	4	9	7	2	1
草丈 cm	57.5	39.2	52.6	41.2	38.1	38.0	36.8
茎数 本/mi	671	651	695	549	642	584	802
葉色 葉色板	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.0



ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかり 生育状況（令和8年6月24日調査）

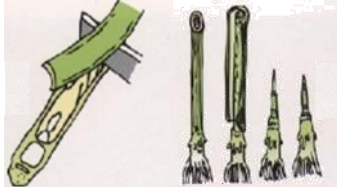



品種	ハナエチゼン			コシヒカリ					あきさかり				
	調査場所	農業試験場	JA坂井農場	現地	農業試験場	JA坂井農場		現地	農業試験場	JA坂井農場	現地		
栽培方法 移植・播種時期	移植 4/30	移植 4/30	移植 4/27	移植 5/20	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/14	直播 5/4	移植 4/30	移植 5/20	移植 5/15	移植 5/16	
調査地点数	1	1	8	1	1	1	15	4	1	1	1	3	
草丈 cm	本年	57.4	55.8	53.9	43.0	41.8	44.0	45.8	42.4	51.4	38.1	44.0	40.2
	平年	49.3	53.7	50.6	40.1	46.0	41.6	44.5	43.4	45.3	37.0	39.0	43.0
茎数 本/m²	本年	588	559	557	583	386	670	480	656	664	650	597	491
	平年	648	510	522	505	477	528	432	640	728	520	475	481
葉齢 枚	本年	11.1	12.5	11.0	9.3	9.9	8.9	9.0	9.2	10.8	9.4	11.1	8.7
	平年	10.1	10.6	10.5	8.8	9.1	8.8	8.6	8.6	10.1	8.8	8.6	9.3
葉色 葉色板	本年	4.6	4.0	4.1	4.3	4.3	4.5	4.2	4.1	4.3	4.4	4.5	4.2
	平年	4.5	4.3	4.5	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.7	4.6	4.4	4.6

いちほまれ 穂肥基準



【多肥や時期が遅れた施肥は高タンパクにつながる恐れがあるので適量適期の追肥を順守する】

栽培区分	内奥		幼穂長と葉色の確認方法														
特別栽培①③ 無化学肥料栽培 [有機100%]	○分施肥培 ・出穂30日前（5月15日移植なら7月5日頃）に葉色に応じて施用 ・有機100%の肥料を使用 ・2回目の施用時期は1回目の10日後	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>出穂30日前</td> <td>1回目の10日後</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4.5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		1回目	2回目		出穂30日前	1回目の10日後	4.0	3	2	4.5	2	2	幼穂長 ・1株の中で最も長い葉の茎を根元からとる ・中心部分をカッターで切るか、葉鞘を丁寧に剥く ・幼穂の長さを計る
		葉色		窒素量 (kg/10a)													
1回目	2回目																
	出穂30日前	1回目の10日後															
4.0	3	2															
4.5	2	2															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">幼穂長 1 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td colspan="2">2</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		幼穂長 1 mm		4.0	2										
葉色		窒素量 (kg/10a)															
	幼穂長 1 mm																
4.0	2																
特別栽培②④ 減化学肥料栽培 [有機50%]	○基肥一括施肥栽培 ・幼穂長 1 mm（5月15日移植なら7月10日頃）のときに葉色が4.0未満なら窒素成分で2 kg/10a追肥 ・有機100%の肥料を使用	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">幼穂長 1 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td colspan="2">2</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		幼穂長 1 mm		4.0	2		カッターで切る場合 葉鞘を剥く場合  幼穂						
		葉色		窒素量 (kg/10a)													
幼穂長 1 mm																	
4.0	2																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">幼穂長 1 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0</td> <td colspan="2">5</td> </tr> <tr> <td>4.5</td> <td colspan="2">4</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		幼穂長 1 mm		4.0	5		4.5	4							
葉色		窒素量 (kg/10a)															
	幼穂長 1 mm																
4.0	5																
4.5	4																
エコ栽培米 [有機20%]	○基肥一括施肥栽培 ・原則、基準量を施用しているときは追肥しない ・特に、生育量が大きい場合※や出穂後の曇天が予想される場合は追肥しない ※幼穂形成期の「草丈cm」と「地際から20cmで測定した茎数（太い茎）本/m ² 」の積が、33,000を超える場合 ・低地力圃場で、生育量が小さい場合は、幼穂形成期に窒素成分で2 kg/10a追肥する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>出穂30日前</td> <td>1回目の10日後</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4.5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		1回目	2回目		出穂30日前	1回目の10日後	4.0	3	2	4.5	2	2	葉色 ・葉色板を準備 ・完全展開第1葉から1枚下の葉の中央部を葉色板から約1 cm離して計る ・計測した値から0.5差し引く 
				葉色	窒素量 (kg/10a)												
1回目	2回目																
	出穂30日前	1回目の10日後															
4.0	3	2															
4.5	2	2															
○分施肥培 ・幼穂長 1 mmのときに葉色に応じて施用 ・エコ肥料を使用	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉色</th> <th colspan="2">窒素量 (kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>出穂30日前</td> <td>1回目の10日後</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4.5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	葉色	窒素量 (kg/10a)		1回目	2回目		出穂30日前	1回目の10日後	4.0	3	2	4.5	2	2		
葉色	窒素量 (kg/10a)																
	1回目	2回目															
	出穂30日前	1回目の10日後															
4.0	3	2															
4.5	2	2															

穂肥基準およびコシヒカリの倒伏軽減剤の施用基準

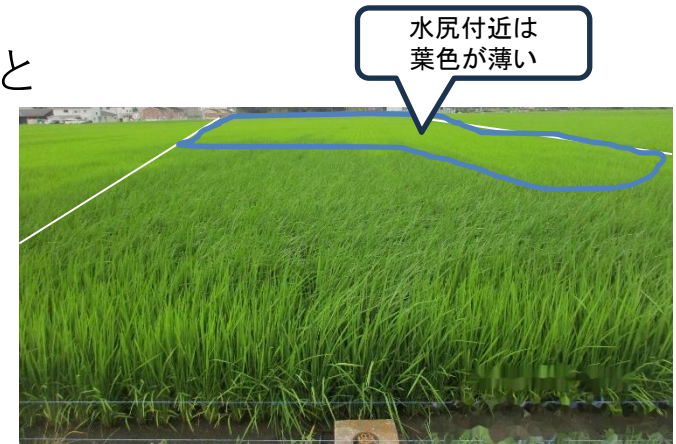
基準	今後の管理																																																																																																														
分施栽培 穂肥 ハナエチゼン コシヒカリ あきさかり	<p>○穂肥の施肥窒素量</p> <table border="1" data-bbox="327 211 1908 458"> <thead> <tr> <th rowspan="3">品種</th> <th colspan="4">1回目</th> <th colspan="2">2回目</th> </tr> <tr> <th colspan="2">施用時期</th> <th rowspan="2">葉色の目安 葉色板</th> <th rowspan="2">施肥窒素量 kg/10a</th> <th colspan="2">施用時期</th> </tr> <tr> <th>幼穂長 mm</th> <th>出穂前日数</th> <th>1回目施用後日数</th> <th>施肥窒素量 kg/10a</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハナエチゼン</td> <td>1~2</td> <td>21</td> <td>4.5</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>3.5</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>あきさかり</td> <td>2</td> <td>23</td> <td>4.0</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>幼穂形成期の葉色が薄い場合は、1回目の施用時期を早める</p>																										品種	1回目				2回目		施用時期		葉色の目安 葉色板	施肥窒素量 kg/10a	施用時期		幼穂長 mm	出穂前日数	1回目施用後日数	施肥窒素量 kg/10a	ハナエチゼン	1~2	21	4.5	2	10	2	コシヒカリ	10	17	3.5	2	7	2	あきさかり	2	23	4.0	2	10	2																																															
品種	1回目				2回目																																																																																																										
	施用時期		葉色の目安 葉色板	施肥窒素量 kg/10a	施用時期																																																																																																										
	幼穂長 mm	出穂前日数			1回目施用後日数	施肥窒素量 kg/10a																																																																																																									
ハナエチゼン	1~2	21	4.5	2	10	2																																																																																																									
コシヒカリ	10	17	3.5	2	7	2																																																																																																									
あきさかり	2	23	4.0	2	10	2																																																																																																									
分施栽培 コシヒカリ 穂肥施用量 倒伏軽減剤	<p>○穂肥の施用基準 幼穂形成期（幼穂長2mm）の 草丈（cm） 莖数（本/m²） 葉色の積から施用量を求める</p> <table border="1" data-bbox="319 705 1100 1125"> <thead> <tr> <th rowspan="2">葉緑素計 草丈×莖数×葉色値 (×10,000)</th> <th rowspan="2">葉色板 草丈×莖数×葉色値 ×(1,000)</th> <th colspan="3">施肥量管理区分(Nkg/10a)</th> <th rowspan="2">倒伏の 可能性</th> </tr> <tr> <th>1回</th> <th>2回</th> <th>3回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>~ 77</td> <td>~ 77</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>小</td> </tr> <tr> <td>77 ~ 88</td> <td>77 ~ 89</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>小</td> </tr> <tr> <td>88 ~ 98</td> <td>89 ~ 102</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>—</td> <td>小</td> </tr> <tr> <td>98 ~ 109</td> <td>102 ~ 115</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>—</td> <td>小</td> </tr> <tr> <td>109 ~ 121</td> <td>115 ~ 128</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>—</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>121 ~ 132</td> <td>128 ~ 142</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>—</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>132 ~ 146</td> <td>142 ~ 158</td> <td>—</td> <td>2.0</td> <td>—</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>146 ~ 163</td> <td>158 ~ 177</td> <td>—</td> <td>1.5</td> <td>—</td> <td>大</td> </tr> <tr> <td>163 ~ 178</td> <td>177 ~ 196</td> <td>—</td> <td>1.0</td> <td>—</td> <td>大</td> </tr> <tr> <td>178 ~ 190</td> <td>196 ~ 209</td> <td>—</td> <td>0.5</td> <td>—</td> <td>大</td> </tr> </tbody> </table>													葉緑素計 草丈×莖数×葉色値 (×10,000)	葉色板 草丈×莖数×葉色値 ×(1,000)	施肥量管理区分(Nkg/10a)			倒伏の 可能性	1回	2回	3回	~ 77	~ 77	2.0	2.0	1.0	小	77 ~ 88	77 ~ 89	2.0	1.5	1.0	小	88 ~ 98	89 ~ 102	2.0	2.0	—	小	98 ~ 109	102 ~ 115	2.0	1.5	—	小	109 ~ 121	115 ~ 128	2.0	1.0	—	中	121 ~ 132	128 ~ 142	1.0	1.5	—	中	132 ~ 146	142 ~ 158	—	2.0	—	中	146 ~ 163	158 ~ 177	—	1.5	—	大	163 ~ 178	177 ~ 196	—	1.0	—	大	178 ~ 190	196 ~ 209	—	0.5	—	大	<p>○倒伏軽減剤の施用基準 穂ばらみ期前後（出穂5~14日前）に、第4、5節の長さが 14cm以上の場合、倒伏軽減剤の施用を検討する。</p> <table border="1" data-bbox="1141 722 1997 1100"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>施用時期</th> <th>施用量 kg/10a</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ロミカ粒剤</td> <td>出穂 25~10日前</td> <td>2~3</td> <td>湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 黒ボク土は効果が劣ることがある</td> </tr> <tr> <td>スマレクト粒剤</td> <td>出穂 15~10日前</td> <td>2~3</td> <td>湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 砂壤土では2kg/10aとする</td> </tr> <tr> <td>ビビフル粉剤 DL</td> <td>出穂 10~5日前</td> <td>3~4</td> <td>散布</td> </tr> </tbody> </table>													薬剤名	施用時期	施用量 kg/10a	備考	ロミカ粒剤	出穂 25~10日前	2~3	湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 黒ボク土は効果が劣ることがある	スマレクト粒剤	出穂 15~10日前	2~3	湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 砂壤土では2kg/10aとする	ビビフル粉剤 DL	出穂 10~5日前	3~4	散布
葉緑素計 草丈×莖数×葉色値 (×10,000)	葉色板 草丈×莖数×葉色値 ×(1,000)	施肥量管理区分(Nkg/10a)			倒伏の 可能性																																																																																																										
		1回	2回	3回																																																																																																											
~ 77	~ 77	2.0	2.0	1.0	小																																																																																																										
77 ~ 88	77 ~ 89	2.0	1.5	1.0	小																																																																																																										
88 ~ 98	89 ~ 102	2.0	2.0	—	小																																																																																																										
98 ~ 109	102 ~ 115	2.0	1.5	—	小																																																																																																										
109 ~ 121	115 ~ 128	2.0	1.0	—	中																																																																																																										
121 ~ 132	128 ~ 142	1.0	1.5	—	中																																																																																																										
132 ~ 146	142 ~ 158	—	2.0	—	中																																																																																																										
146 ~ 163	158 ~ 177	—	1.5	—	大																																																																																																										
163 ~ 178	177 ~ 196	—	1.0	—	大																																																																																																										
178 ~ 190	196 ~ 209	—	0.5	—	大																																																																																																										
薬剤名	施用時期	施用量 kg/10a	備考																																																																																																												
ロミカ粒剤	出穂 25~10日前	2~3	湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 黒ボク土は効果が劣ることがある																																																																																																												
スマレクト粒剤	出穂 15~10日前	2~3	湛水散布 7日間は落水やかけ流しをしない 砂壤土では2kg/10aとする																																																																																																												
ビビフル粉剤 DL	出穂 10~5日前	3~4	散布																																																																																																												
コシヒカリ 出穂前日数 と幼穂長の 関係（目安）	<table border="1" data-bbox="296 1219 1997 1305"> <thead> <tr> <th>出穂前日数</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼穂長</td> <td>190</td><td>180</td><td>170</td><td>160</td><td>150</td><td>140</td><td>130</td><td>120</td><td>110</td><td>100</td><td>90</td><td>80</td><td>70</td><td>60</td><td>55</td><td>50</td><td>45</td><td>40</td><td>35</td><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>2</td><td>1</td><td>0.4</td> </tr> </tbody> </table>																										出穂前日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	幼穂長	190	180	170	160	150	140	130	120	110	100	90	80	70	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	2	1	0.4																												
出穂前日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27																																																																																				
幼穂長	190	180	170	160	150	140	130	120	110	100	90	80	70	60	55	50	45	40	35	30	25	20	15	10	5	2	1	0.4																																																																																			

水稻の流し込み施肥とは

- ・ 入水に合わせて水口から肥料を流し込み、水の動きで田面全体に肥料を拡散させる追肥方法
- ・ 液体肥料・専用NK肥料、塩安等が使用可能
- ・ 水田に入らず、重い動力散布機を使用しないため、暑い時期に省力的に追肥できることが利点。
- ・ 一方で、圃場条件や実施方法に留意しないと、均一散布が難しい一面もある。

【流し込み施肥成功の前提条件】

- ・ 極端な変形田ではないこと
- ・ 水田の長辺が極端に長くないこと
- ・ 田面が均平であること（除草剤がしっかり効いていれば○）
- ・ 畦畔・水尻の止水が確実に実施できていること
- ・ 水深が10cm程度まで、貯められる圃場であること
- ・ 中干しによる田面のクラックが大きくないこと
- ・ 大区画圃場では、30aに1つ程度の水口があり、それぞれの水口から施用できること
- ・ 十分な入水量が確保できること
- ・ 追肥後にゲリラ豪雨の発生が予測されていない



入水量不足により、水尻まで肥料が拡散しなかった事例

前提条件がそろっていないと、不均一な施肥になることもあるので注意する

【基本的な施肥手順】

①実施前に水尻を高く止め、水深を**1cm程度**にする。

(水がなくても、深水すぎてもいけない。スムーズに水流に合わせて肥料を拡散させるため)

②肥料と資材※を準備する

※種子消毒用に使われるネット袋もしくはコンテナ

③水口に肥料と資材をセッティングする

④入水を開始し、肥料を投入する。

⑤圃場全体の水深が8～10cm程度になったら止水する。

(オーバーフローはさせない)

⑥施肥後は3～5日は落水しない。



コンテナの上に肥料袋を設置している例
(肥料袋に切り込みを入れ、徐々に肥料を投入)



種子消毒用のネット袋に肥料を投入し、水口設置している例

圃場条件を確認し、条件がそろっている田んぼ1枚からチャレンジしてみましよう。

大豆の中耕培土と除草について

項目	内容
----	----

中耕培土

【目的】

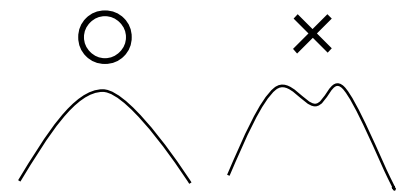
- ①畝を作り排水性を向上させる
- ②不定根の発生を促進させる
- ③除草（播種後に施用する除草剤の残効は約1か月）
- ④根粒菌の着床を促進させる
- ⑤倒伏を軽減する

【時期】

	時期	培土の高さ
1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度
2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで

（留意点）

- ・土塊が大きいと不定根が発生しにくいため、土壌水分が高いときに作業しない
- ・新根は6月下旬から7月中旬（播種後20～35日）に発生するため7月中旬までに行う
- ・株元がくぼむと水が溜まるため山型にする
- ・培土後に枕地の畝を壊して排水溝と繋げる
- ・培土板を併用するなどして株元まで土をきちんと寄せる



除草

- ・雑草が小さいうちに処理をする
例) 大豆バサグランの場合、雑草の6葉期まで（概ね7月上中旬）に散布する
- ・[病害虫防除指針](#)を参照